



に見える。

そんな中で、新潟県と新潟市は「新潟州構想」を進めてきた。泉田・新潟県知事と私が、「県市の役割分担を明確化して二重行政の弊害を廃し、成長戦略・拠点化などは県市の力を合わせ地域の活性化を図る」ことに合意した取り組みである。

一時は「縣市合併」や「特別区のあり方」など、「カタチ論議」に陥った時期もあったが、北川正恭・早稲田大学院教授の助言もあり、具体的テーマを絞って「県市の役割の再整理」を徹底してやってきた。

これまでに8つのテーマで具体的実践や今後の方向付けを終えた。例えばハローワークは国の職業紹介・県の職業訓練・市の生活保護などの支援の3ステージにワンストップで対応する「ワークポート新潟」を区役所に設置。生活保護者の就職に結びつけ、全国で最も進んだハローワークと自負している。市内にある公営住宅や文化施設は市が一元的に管理すること、広域対応が必要な感染症対策などでは知事が保健所の司令塔になることで合意し、動き出した。

一方、拠点化の分野は取り組みが遅れていたが、港湾分野で新しい活路が開けそうだ。新潟市が政令市になっても港湾管理者は県のままだ。聖籠町にまたがっている新潟東港はともかく、西港は県と市だけが当事者で、新潟州の実践対象に適している。西港の中でもまちづくりに最も関連が深い「万代島エリア」に新たなにぎわい空間をつくることを新潟州のテーマにすることで昨年合意、動き出した。

ここには国際会議場と見本市展示場、ホテルなどの機能を備えた「朱鷺メッセ」が県の主導の下、整備されており、その隣接地に新たな賑わい空間をつくるのが課題だ。経済界などの意見も聞き、できるだけ早く方向を定め、年度内に予定されている港湾計画の改定に結びつけたい。他地域の参考となるよう、良い事例に育てていきたい。

\*:

## 2 トピック

\*:

### ● 鷺泊港フェリーターミナル供用式典を開催

～北海道内の離島港湾で初めて ボーディングブリッジを有したフェリーターミナルが完成～  
(北海道利尻富士町 産業建設課)

平成23年度より、北海道利尻富士町鷺泊港において整備を進めていたフェリー岸壁ならびに、ボーディングブリッジを有したバリアフリー対応フェリーターミナルの完成を祝い、平成26年3月22日(土)に、同フェリーターミナルにて供用式典を開催しました。

供用式典は、北海道開発局稚内開発建設部と利尻富士町の共催により開催されたもので、武部新衆議院議員、鈴木貴子 衆議院議員、徳永エリ 参議院議員のほか、工藤広 稚内市長、浅田弘隆 天塩町長、保野洋一 利尻町長ほか、地元関係者約140名に出席いただきました。

また、新フェリーターミナルの供用式典に併せて、同施設を核とした地域活性化を目指す「みなとオアシス」及びマリンレジャー振興の拠点となる「海の駅」の登録証の授与式も併せて行われたところです。

新たな利尻島の玄関口の完成により、高齢者や身体に不自由がある方はもちろんのこと、観光客の方々の利便性も大きく向上しましたので、是非、皆様も利尻島観光にお越しいただければと思います。



鴛泊港フェリーターミナル



みなとオアシス登録証授与

(左：北海道開発局 川合港湾空港部長、右：田村利尻富士町長)



供用式典テープカットの様子

●**仙台塩釜港コンテナ取扱貨物量20万TEU（歴代2位）まで回復！（速報値）**

（東北地方整備局 塩釜港湾・空港整備事務所）

平成25年仙台塩釜港のコンテナ取扱貨物量は約20万4千TEUを記録し、震災前の平成22年と比較して約94%まで回復する見込みとなりました。

20万TEUを記録するのは、仙台塩釜港においてコンテナ貨物の取扱を始めてから2度目であり、過去最高を記録した平成22年に次いで2番目の取扱量となりました。



高砂コンテナターミナル（H26. 2. 5撮影）



国内最大級内航コンテナ船「さがみ」（H25. 12. 4撮影）

●**横浜港南本牧地区 「橋脚基礎据付工事」 プレス見学会開催**

（関東地方整備局 京浜港湾事務所）

平成26年2月21日（金）に横浜港南本牧ふ頭でニューマチックケーソン工法を用いた「橋脚基礎据付工事」のプレス向け見学会を実施しました。



見学会には、多数の報道関係者の方々にご参加頂き、ニューチックケーソン基礎の据付開始から海底面への着底までの一連の流れをご覧頂きました。報道関係者の方々からは、当該事業の目的やその効果、施工方法の詳細など多数のご質問を頂き、非常に活気のある見学会となりました。



## ●鹿児島港新港区複合一貫輸送ターミナル供用式典が開催されました

(九州地方整備局 鹿児島港湾・空港整備事務所)

奄美・沖縄航路の拠点機能の強化を図るため、国と鹿児島県が鹿児島港新港区で整備をすすめている複合一貫輸送ターミナルの耐震強化岸壁、旅客待合所などの一部の施設の供用式典が平成26年3月15日(土)に開催されました。

式典では、伊藤鹿児島県知事、森鹿児島市長、大野九州地方整備局副局長の式辞に続き、来賓祝辞、事業概要の説明が行われた後、地元保育園児も参加してテープカットが行われました。

